

# 4 小数のわり算

## (1) 整数÷小数

### 基本の確かめ

整数÷小数のわり算の計算の仕方を考えよう。

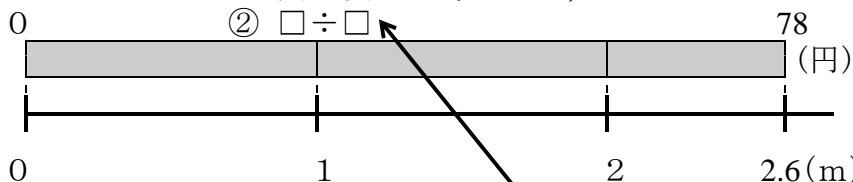
① リボン 2.6 mの代金が 78 円です。このリボン 1 mのねだんはいくらでしょう。

● 代金と長さが分かっている、1 mのねだんを求めるから、わり算になる。

代金と長さと 1 mのねだんを使って、言葉の式で表すと

①  ÷  =

1 mのねだんをテープ図を使って考えると、



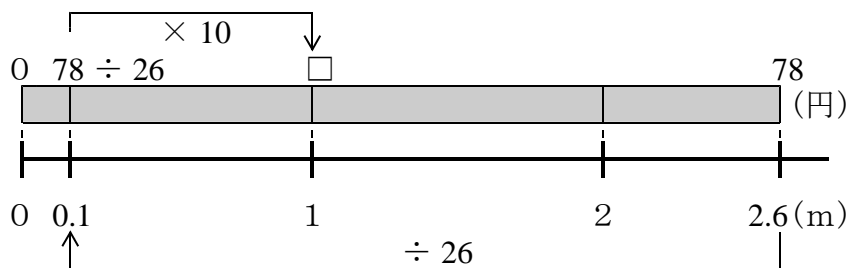
1 mのねだんを求める式は、

②  ÷

③ 78 ÷ 2.6の計算のしかたを考えるのに、たけしさんとかおりさんは、次のように考えました。二人の式は次のようになります。

たけしさん

ぼくは、0.1 mの代金から 1 mのねだんを求めたよ。



2.6 mは 0.1 mの

倍だから、0.1 mの代金は

÷

円で表すことができる。

リボン 0.1 mのねだん

1 mのねだんは、0.1 mの代金の

倍だから、

78 ÷ 2.6

=

÷

×

リボン 0.1 mのねだん

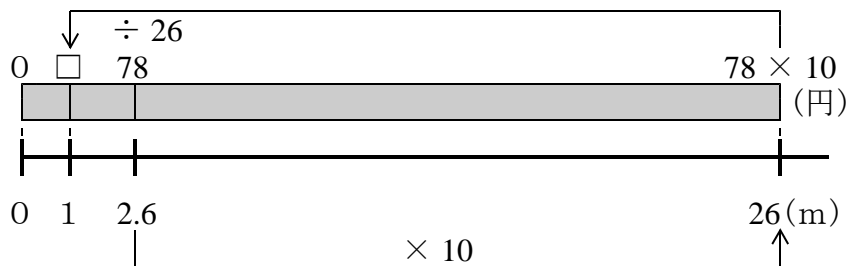
=

答え

円

かおりさん

わたしは、2.6 mの10倍の26 mの代金から1 mのねだんを求めたよ。



$78 \div 2.6 =$

$$\frac{(78 \times 10)}{\text{~~~~~}}$$

26 mのねだん

$$\div ( \quad \times \quad )$$

かおりさんの式から、 $78 \div 2.6$ の商は、わられる数とわる数を10倍した

$$\frac{\boxed{\phantom{000}}}{\uparrow 10 \text{ 倍}} \div \frac{\boxed{\phantom{000}}}{\uparrow 10 \text{ 倍}} \text{ の計算で求められます。}$$

$78 \div 2.6$

答え            円

整数÷小数の計算は、わる数とわられる数に同じ数をかけて、  
 小数を整数に直し、整数÷整数のわり算の計算の式に直して考えていけばよい。

### ステップ1

② リボン1.4 mの代金が70円でした。このリボン1 mのねだんはいくらでしょう。

代金と長さが分かっている、1 mのねだんを求めるから、わり算になる。

だから式は、 $\boxed{\phantom{000}} \div \boxed{\phantom{000}}$

わる数が小数だから、わる数とわられる数を10倍して考えると、

$$70 \div 1.4 = (70 \times \boxed{\phantom{00}}) \div (\boxed{\phantom{00}} \times \boxed{\phantom{00}})$$

$$= \boxed{\phantom{000}} \quad \text{答え} \quad \underline{\phantom{000}} \text{ 円}$$

**基本の確かめ**

整数÷0. □のわり算の計算の仕方を考えよう。

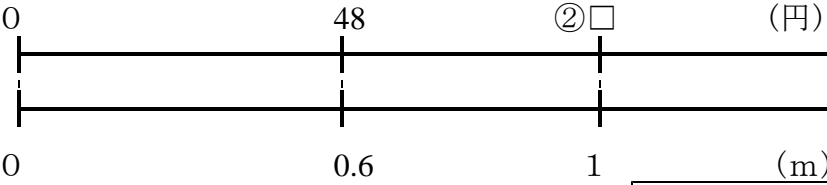
③ リボン 0.6 mの代金が 48 円です。このリボン 1 mのねだんはいくらでしょう。

● **代金**と**長さ**が分かっている、**1 mのねだん**を求めるから、わり算になる。

**代金**と**長さ**と**1 mのねだん**を使って、言葉の式で表すと

①  ÷  =

1 mのねだんを数直線を使って考えると、



1 mのねだんを求める式は、 ②  ÷

③ 計算すると、  $48 \div 0.6 = (48 \times 10) \div (\text{□} \times \text{□})$

=  $480 \div \text{□}$

=       答え  円

整数÷0. □のように、わる数が1より小さい小数でも、わり算を使うことができ、その計算は、わる数とわられる数に同じ数をかけて、小数を整数に直し、整数÷整数のわり算の計算の式に直して考えていけばよい。

**ステップ1**

④ 次の計算をしましょう。

①  $7 \div 0.2 = \text{□}$

②  $28 \div 0.5 = \text{□}$

③  $76 \div 0.4 = \text{□}$

## 基本の確かめ

整数÷小数の筆算の仕方を考えよう。

- ⑤ 3.6 mの鉄のぼうの重さをはかったら、18kg でした。  
この鉄のぼう 1 mの重さは何 kg でしょう。

- 全体の重さと長さが分かっている、1 mの重さを求めるから、わり算になる。

全体の重さと長さと 1 mの重さを使って、言葉の式で表すと

①  ÷  =

- ② 計算すると、

- ③  $18 \div 3.6$  の計算は、  
筆算で次のようにします。  
□にあてはまる数を書きましょう。

$18 \div 3.6$

$= (18 \times 10) \div (\quad \times \quad)$

$= 180 \div \quad$

$= \quad$

答え  kg

The diagram illustrates the long division process for  $18 \div 3.6$ . It shows three stages of the calculation:

- Initial setup:  $3.6 \overline{) 18}$ . Arrows point from the 3.6 and 18 to the first two boxes in the equation  $(18 \times 10) \div (\quad \times \quad)$ .
- Conversion:  $3.6 \times 10 = 36$  and  $18 \times 10 = 180$ . Arrows point from the  $\times 10$  operations to the boxes in the equation  $180 \div \quad$ .
- Final long division:  $3 \overline{) 180}$ . An arrow points from the final result box in the equation to the final result box in the long division.

## ステップ 1

- ⑥ 次のわり算を筆算で計算しましょう。

①  $19 \div 3.8 =$        ②  $24 \div 1.5 =$        ③  $57 \div 0.3 =$

$3.8 \overline{) 19}$

$1.5 \overline{) 24}$

$0.3 \overline{) 57}$

(2) 小数÷小数

基本の確かめ

小数÷小数のわり算の計算の仕方を考えよう。

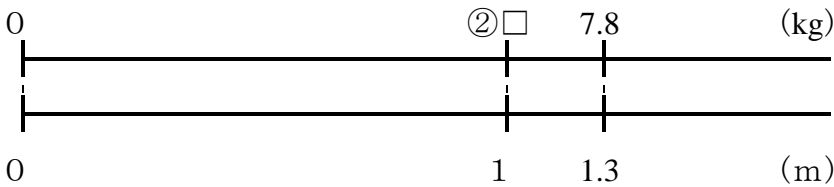
7 1.3 mの鉄のパイプの重さをはかったら、7.8kg でした。  
この鉄のパイプ 1 mの重さは何 kg でしょう。

● 全体の重さと長さが分かっている、1 mの重さを求めるから、わり算になる。

全体の重さと長さと 1 mの重さを使って、言葉の式で表すと

①  ÷  =

1 mの重さを数直線を使って考えると、



1 mの重さを求める式は、 ②  ÷

③ 計算すると、

④ 18 ÷ 3.6 の計算は、  
筆算で次のようにします。  
□にあてはまる数を書きましょう。

$$7.8 \div 1.3$$

$$= (7.8 \times 10) \div (\square \times \square)$$

$$= 78 \div \square$$

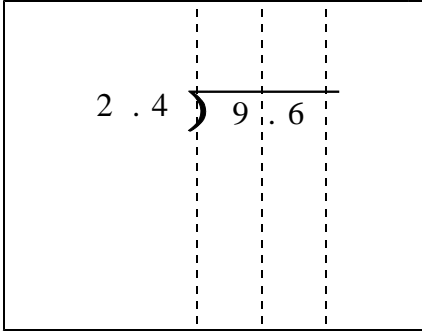
$$= \square$$

答え  kg

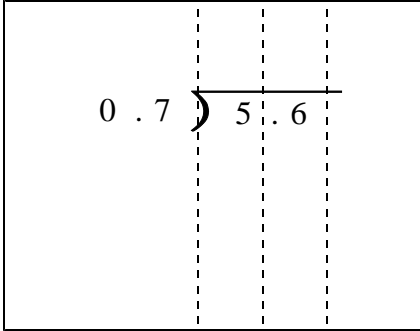
**ステップ1**

⑧ 次のわり算を筆算で計算しましょう。

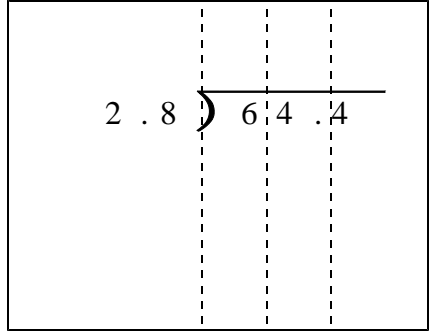
①  $9.6 \div 2.4 =$



②  $5.6 \div 0.7 =$

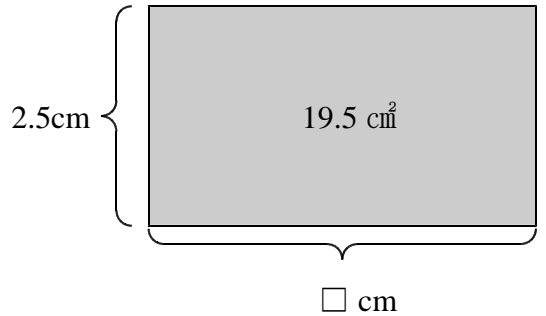


③  $64.4 \div 2.8 =$



⑨ 次のような長方形の横の長さを求めましょう。

① 式は



② わりきれのまで計算すると,

$$2.5 \overline{) 19.5} \xrightarrow{\times 10} 25 \overline{) 195} \xrightarrow{\times 10} 25 \overline{) 1950}$$

$$\rightarrow 2.5 \overline{) 19.5}$$

**【小数でわる計算は、筆算で次のようにします。】**

① わる数の小数点を右に移して、整数にする。

② わられる数の小数点も、わる数の小数点と同じだけ右に移す。

③ わる数が整数のときと同じように計算し、商の小数点は、わられる数の右に移した小数点にそろえてうつ。

0

③ 答え  cm

10 わりきれるまで計算しましょう。

①  $25.2 \div 7.2 =$

A handwriting practice box for the division problem 25.2 ÷ 7.2. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 7.2 is written on the left, and the dividend 25.2 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

②  $9 \div 2.5 =$

A handwriting practice box for the division problem 9 ÷ 2.5. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 2.5 is written on the left, and the dividend 9 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

③  $1.4 \div 5.6 =$

A handwriting practice box for the division problem 1.4 ÷ 5.6. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 5.6 is written on the left, and the dividend 1.4 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

### ステップ3

11 わりきれるまで計算しましょう。

①  $2.47 \div 3.8 =$

A handwriting practice box for the division problem 2.47 ÷ 3.8. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 3.8 is written on the left, and the dividend 2.47 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

②  $0.12 \div 7.5 =$

A handwriting practice box for the division problem 0.12 ÷ 7.5. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 7.5 is written on the left, and the dividend 0.12 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

③  $0.42 \div 5.6 =$

A handwriting practice box for the division problem 0.42 ÷ 5.6. It features a grid of vertical dashed lines. The divisor 5.6 is written on the left, and the dividend 0.42 is written on the right, with a horizontal line above it. The numbers are aligned with the dashed lines.

(小数) ÷ (小数)は、どちらも整数に直さなくても、わる数を整数に直すだけでも、(小数) ÷ (整数)になるから、計算することができるね。

12 計算のまちがいを見つけて、正しく計算しましょう。

①  $21 \div 3.5 = 0.6$

②  $6.3 \div 8.4 = 7.5$

$3.5$	$)$	$21.0$	$0.6$
		$21.0$	$0.6$
		$0$	$0$

$8.4$	$)$	$63.0$	$7.5$
		$58.8$	$7.5$
		$4.2$	$0$
		$4.2$	$0$
		$0$	$0$

↓ : 正しい計算

↓ : 正しい計算

①  $21 \div 3.5 =$

②  $6.3 \div 8.4 =$

$3.5$	$)$	$21$	
-------	-----	------	--

$8.4$	$)$	$6.3$	
-------	-----	-------	--



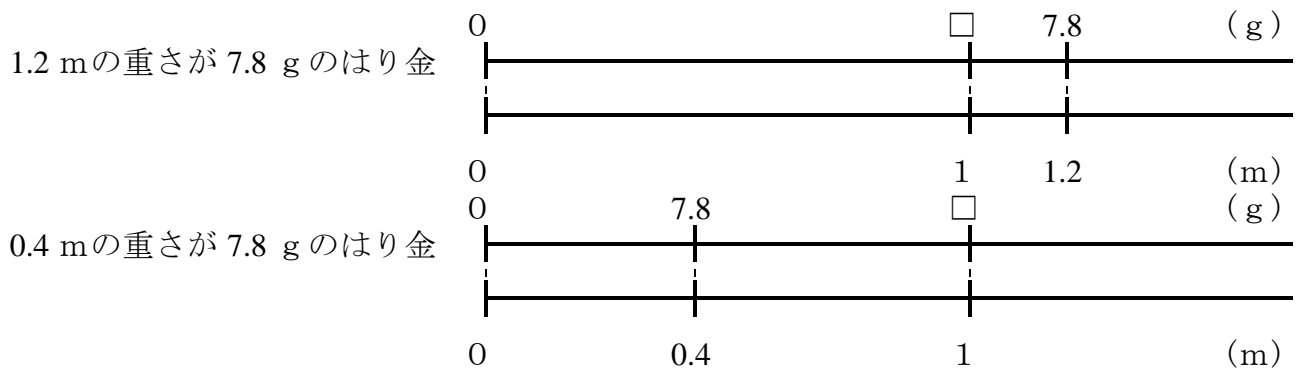
## 【商の大きさ】

### 基本の確かめ

わる数と商の関係を調べよう。

- 13 1.2 mの重さが7.8 gのはり金と、0.4 mの重さが、7.8 gのはり金があります。それぞれの1 mの重さを、7.2 gと比べましょう。

1 mの重さを数直線を使って考えると、



- ① それぞれの1 mの重さを求めて、7.2 gと比べると

1.2 mの重さが7.8 gのはり金  $7.8 \div 1.2 =$   (g)で7.2 gより小さい。

0.4 mの重さが7.8 gのはり金  $7.8 \div 0.4 =$   (g)で7.2 gより大きい。

わる数が1より大きいときは、商はわられる数より小さくなります。  
わる数が1より小さいときは、商はわられる数より大きくなります。

### ステップ2

- 14 大きい方はどちらでしょう。

①  $3.5 \div 1.4$  ,  $3.5$  答え

②  $0.9 \div 0.4$  ,  $0.9$  答え

(確かめの計算スペース)

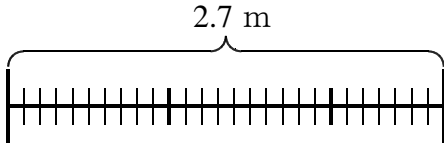
(確かめの計算スペース)

(3) 余りのあるわり算

基本の確かめ

余りの求め方を考えよう。

- 15 2.7 mのひもを、0.6 mずつ切ってアクセサリーをつくります。  
 0.6 mのひもは何本切り取れるでしょう。  
 また、何mあまるでしょう。



- 何本とれるか求める式は、

①

- ② この式を筆算で求めて、□にあてはまる数を書きましょう。

$$0.6 \overline{) 2.7}$$

$$\rightarrow 0.6 \overline{) 2 \begin{array}{l} \square \\ \hline \end{array} 7}$$

$$\rightarrow 0.6 \overline{) 2 \begin{array}{l} \square \\ \hline \square \\ \hline \square \\ \hline \square \\ \hline \end{array} 7}$$

この数は、 が  十分 ←

- ③ だから、  
 答え  本取れて、 mあまる。
- 

- ④ 答えの確かめをしてみると、
- $$0.6 \times \boxed{\phantom{000}} + \boxed{\phantom{000}} = \boxed{\phantom{000}} \text{ (m)}$$

あまりを求めるときは、0.1 や 0.01 がいくつ分あるか考えていけばよい。  
 小数のわり算では、あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうちます。

**ステップ1**

16 商を小数第1位まで求めて、あまりもだしましょう。

①  $2.5 \div 0.9 =$

②  $8.7 \div 2.6 =$

③  $47 \div 3.8 =$

**ステップ2**

17 2.3 dlのペンキでかべをぬったら、3.4 m<sup>2</sup>ぬれました。  
このペンキ1 dlで、何m<sup>2</sup>のかべをぬれるでしょう。  
商を四捨五入して、小数第1位まで求めましょう。

① 式

② ①の式を筆算で計算すると、商を四捨五入して、  
小数第1位まで求めるのだから、商を

小数第  位まで計算して、小数第  位

を四捨五入すればよい。

③ 答え 約  m<sup>2</sup>

四捨五入するときは、  
その下の位の数を四捨五  
入すればいいんだね。

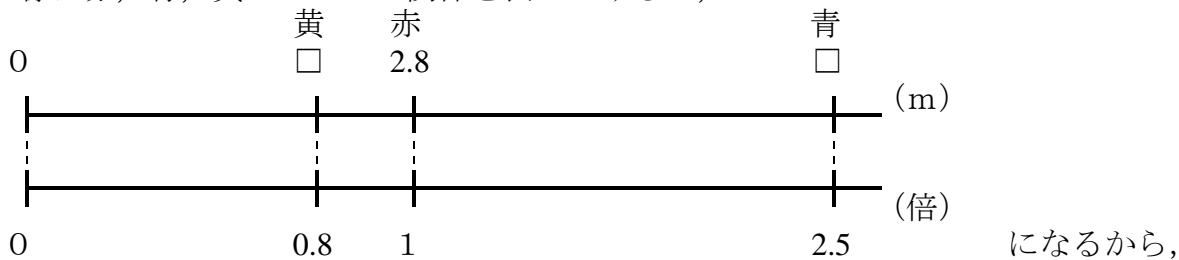
(4) 小数倍とかけ算, わり算

基本の確かめ

小数倍について考えよう。

18 赤いテープの長さは, 2.8 mで, 青のテープの長さは, 赤いテープの長さの 2.5 倍です。  
 また, 黄色のテープの長さは, 赤いテープの長さの 0.8 倍です。  
 青と黄色のテープの長さは, それぞれ何mでしょう。

① 数直線に赤, 青, 黄のテープの関係を表してみると,



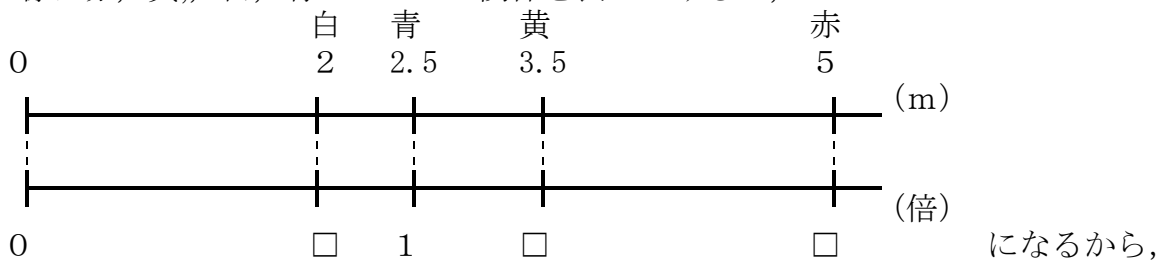
青のテープの長さを求める式は,  =  (m)

黄のテープの長さを求める式は,  =  (m)

19 次のような4本のテープがあります。  
 赤, 黄, 白のテープの長さは, それぞれ  
 青いテープの長さの何倍でしょう。

【テープの色と長さ】					
赤	.....	5 m	黄	.....	3.5 m
青	.....	2.5 m	白	.....	2 m

① 数直線に赤, 黄,, 白, 青のテープの関係を表してみると,



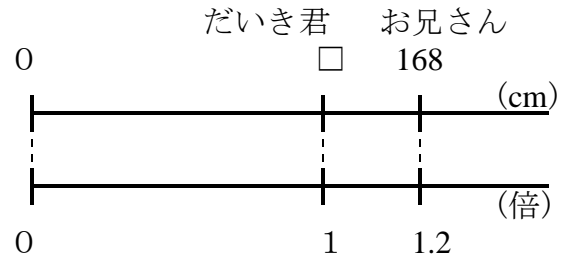
赤のテープの長さを求める式は,  =  (倍)

黄のテープの長さを求める式は,  =  (倍)

白のテープの長さを求める式は,  =  (倍)

20 だいき君のお兄さんの身長は168cmで、だいき君の身長の1.2倍です。  
だいき君のお兄さんの身長は何cmでしょう。

① 数直線に表すと、右のようになるから、  
だいき君の身長を□cmとして、  
かけ算の式に表すと、



$$\square \times \square = \square$$

$$\square = \square$$

$$= \square$$

答え  cm

---

**ステップ1**

21 たけしさんの家から駅までの道のりは、2 km です。  
これは、家からバス停までの道のりの0.5倍です。  
家からバス停までの道のりは何kmでしょう。バス停までの道のりを□kmとして、  
かけ算の式に表して答えをもとめましょう。

(式)  = 2

$$\square = \square$$

$$= \square$$

答え  km

---

# 4 小数のわり算 答えのページ

## (1) 整数÷小数

### 基本の確かめ

整数÷小数のわり算の計算の仕方を考えよう。

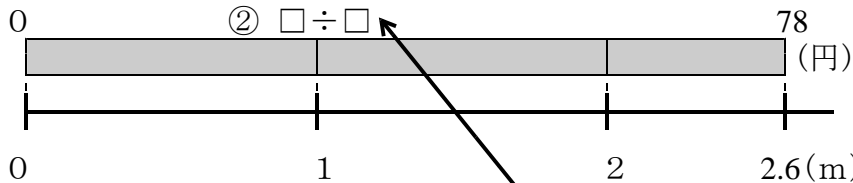
① リボン 2.6 m の代金が 78 円です。このリボン 1 m のねだんはいくらでしょう。

● 代金と長さが分かっている、1 m のねだんを求めるから、わり算になる。

代金と長さと 1 m のねだんを使って、言葉の式で表すと

① 代 金 ÷ 長 さ = 1 m のねだん

1 m のねだんをテープ図を使って考えると、

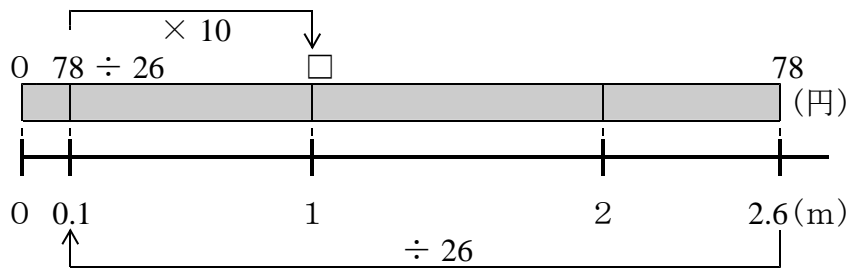


1 m のねだんを求める式は、  
 ② 78 ÷ 2.6

③ 78 ÷ 2.6 の計算のしかたを考えるのに、たけしさんとかおりさんは、次のように考えました。二人の式は次のようになります。

たけしさん

ぼくは、0.1 m の代金から 1 m のねだんを求めたよ。



2.6 m は 0.1 m の 10 倍だから、0.1 m の代金は 78 ÷ 26 円で表すことができる。

↑  
リボン 0.1 m のねだん

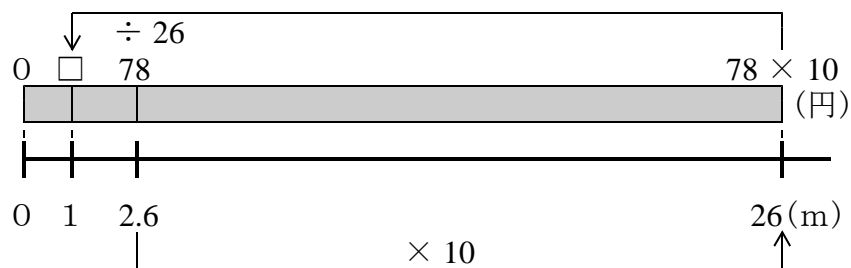
1 m のねだんは、0.1 m の代金の 10 倍だから、

$$78 \div 2.6 = \underbrace{\left( \frac{78}{26} \right)}_{\text{リボン 0.1 m のねだん}} \times 10$$

$$= \frac{30}{1} \quad \text{答え } \underline{\underline{30}} \text{ 円}$$

かおりさん

わたしは、2.6 mの10倍の26 mの代金から1 mのねだんを求めたよ。



$$78 \div 2.6 = \frac{(78 \times 10)}{\text{26 mのねだん}} \div (2.6 \times 10)$$

かおりさんの式から、 $78 \div 2.6$ の商は、わられる数とわる数を10倍した

$$\begin{array}{ccc} \boxed{780} & \div & \boxed{26} & \text{の計算で求められます。} \\ \uparrow & & \uparrow & \\ 10 \text{倍} & & 10 \text{倍} & \\ \boxed{78} & \div & \boxed{2.6} & \end{array}$$

答え  $\boxed{30}$  円

整数÷小数の計算は、わる数とわられる数に同じ数をかけて、  
 小数を整数に直し、整数÷整数のわり算の計算の式に直して考えていけばよい。

### ステップ1

② リボン1.4 mの代金が70円でした。このリボン1 mのねだんはいくらでしょう。

代金と長さが分かっている、1 mのねだんを求めるから、わり算になる。

だから式は、 $\boxed{70} \div \boxed{1.4}$

わる数が小数だから、わる数とわられる数を10倍して考えると、

$$70 \div 1.4 = (70 \times \boxed{10}) \div (\boxed{1.4} \times \boxed{10})$$

$$= \boxed{50}$$

答え  $\boxed{50}$  円

**基本の確かめ**

整数÷0. □のわり算の計算の仕方を考えよう。

③ リボン 0.6 mの代金が 48 円です。このリボン 1 mのねだんはいくらでしょう。

● **代金**と**長さ**が分かっている、**1 mのねだん**を求めるから、わり算になる。

**代金**と**長さ**と**1 mのねだん**を使って、言葉の式で表すと

① 

代	金
---	---

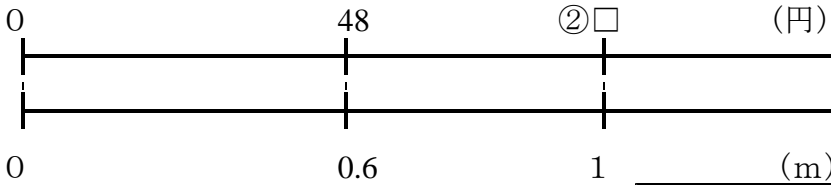
 ÷ 

長	さ
---	---

 = 

1 mのねだん
---------

1 mのねだんを数直線を使って考えると、



1 mのねだんを求める式は、 ② 

48
----

 ÷ 

0.6
-----

③ 計算すると、  $48 \div 0.6 = (48 \times 10) \div ($ 

0.6
-----

 $\times$ 

10
----

 $)$

=  $480 \div$ 

6
---

= 

80
----

答え

80
----

円

整数÷0. □のように、わる数が1より小さい小数でも、わり算を使うことができ、その計算は、わる数とわられる数に同じ数をかけて、小数を整数に直し、整数÷整数のわり算の計算の式に直して考えていけばよい。

**ステップ1**

④ 次の計算をしましょう。

①  $7 \div 0.2 =$ 

35
----

    ②  $28 \div 0.5 =$ 

56
----

    ③  $76 \div 0.4 =$ 

190
-----



**基本の確かめ**

整数÷小数の筆算の仕方を考えよう。

⑤ 3.6 mの鉄のぼうの重さをはかったら、18kg でした。  
この鉄のぼう 1 mの重さは何 kg でしょう。

● **全体の重さ**と**長さ**が分かっている、**1 mの重さ**を求めるから、わり算になる。

**全体の重さ**と**長さ**と**1 mの重さ**を使って、言葉の式で表すと

① 全体の重さ ÷ 長さ = 1 mの長さ

② 計算すると、

③  $18 \div 3.6$  の計算は、  
筆算で次のようにします。  
□にあてはまる数を書きましょう。

$18 \div 3.6$

=  $(18 \times 10) \div (3.6 \times 10)$

=  $180 \div 36$

= 5

答え 5 kg

$$\begin{array}{r} 3.6 \overline{) 18} \\ \times 10 \quad \times 10 \\ \hline 3 \overline{) 180} \\ \underline{180} \\ 0 \end{array}$$

**ステップ 1**

⑥ 次のわり算を筆算で計算しましょう。

①  $19 \div 3.8 =$  5      ②  $24 \div 1.5 =$  16      ③  $57 \div 0.3 =$  190

$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 190} \\ \underline{190} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1 \overline{) 240} \\ \underline{150} \\ 90 \\ \underline{90} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0 \overline{) 570} \\ \underline{300} \\ 270 \\ \underline{270} \\ 0 \end{array}$$

## (2) 小数÷小数

### 基本の確かめ

小数÷小数のわり算の計算の仕方を考えよう。

7 1.3 mの鉄のパイプの重さをはかったら、7.8kg でした。  
この鉄のパイプ 1 mの重さは何 kg でしょう。

● 全体の重さと長さが分かっていると、1 mの重さを求めるから、わり算になる。

全体の重さと長さと 1 mの重さを使って、言葉の式で表すと

① 全体の重さ ÷ 長さ = 1 mの重さ

1 mの重さを数直線を使って考えると、



1 mの重さを求める式は、 ② 7.8 ÷ 1.3

③ 計算すると、

④ 18 ÷ 3.6 の計算は、  
筆算で次のようにします。  
□にあてはまる数を書きましょう。

7.8 ÷ 1.3

= (7.8 × 10) ÷ ( 1.3 × 10 )

= 78 ÷ 13

= 6

答え 6 kg

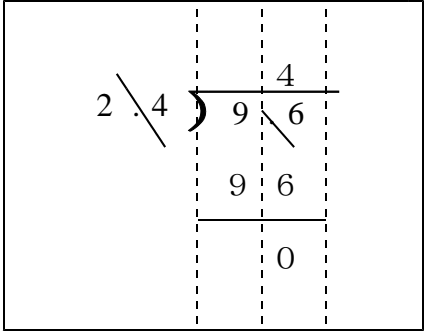
$1.3 \overline{) 7.8}$   
 $\times 10 \quad \times 10$   
 $1 \overline{) 78}$

$1 \overline{) 78}$   
6  
 $\underline{78}$   
 $0$

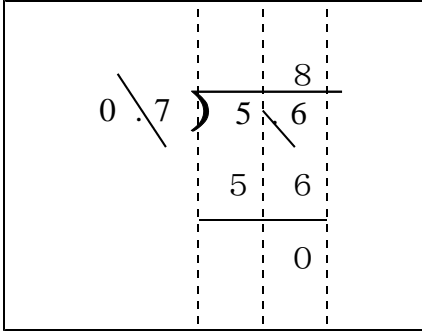
**ステップ1**

8 次のわり算を筆算で計算しましょう。

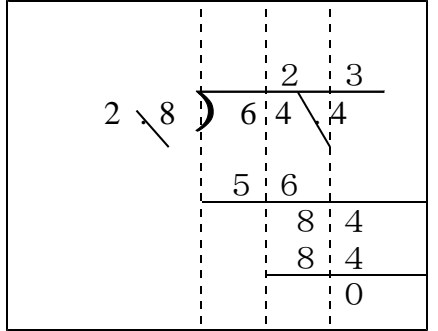
①  $9.6 \div 2.4 =$  4



②  $5.6 \div 0.7 =$  8



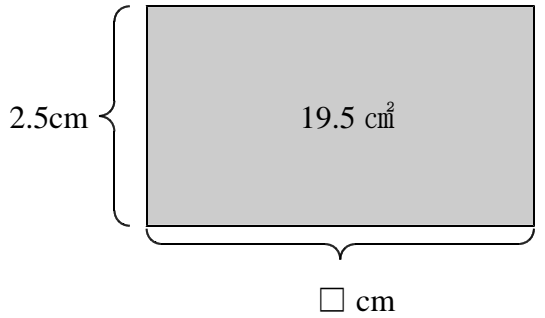
③  $64.4 \div 2.8 =$  23



9 次のような長方形の横の長さを求めましょう。

① 式は

$19.5 \div 2.5$



② わりきれのまで計算すると、

$2.5 \overline{) 19.5} \xrightarrow{\times 10} 25 \overline{) 195} \xrightarrow{\times 10} 25 \overline{) 1950}$

$2.5 \overline{) 19.5} \rightarrow 25 \overline{) 195} \rightarrow 25 \overline{) 1950}$

【小数でわる計算は、筆算で次のようにします。】

① わる数の小数点を右に移して、整数にする。

② わられる数の小数点も、わる数の小数点と同じだけ右に移す。

③ わる数が整数のときと同じように計算し、商の小数点は、わられる数の右に移した小数点にそろえてうつ。

$25 \overline{) 1950}$   
175  


---

200  
200  


---

7.8  


---

0

③ 答え 7.8 cm

10 わりきれるまで計算しましょう。

①  $25.2 \div 7.2 =$  3. 5

$$\begin{array}{r}
 3.5 \\
 7 \overline{) 25.2} \\
 \underline{21} \phantom{6} \\
 4 \phantom{6} \\
 \underline{36} \\
 60 \\
 \underline{60} \\
 0
 \end{array}$$

②  $9 \div 2.5 =$  3. 6

$$\begin{array}{r}
 3.6 \\
 2 \overline{) 9.0} \\
 \underline{6} \phantom{0} \\
 30 \\
 \underline{30} \\
 0
 \end{array}$$

③  $1.4 \div 5.6 =$  0. 2 5

$$\begin{array}{r}
 0.25 \\
 5 \overline{) 1.4} \\
 \underline{10} \phantom{0} \\
 40 \\
 \underline{40} \\
 0
 \end{array}$$

**ステップ3**

11 わりきれるまで計算しましょう。

①  $2.47 \div 3.8 =$  0. 6 5

$$\begin{array}{r}
 0.65 \\
 3 \overline{) 2.47} \\
 \underline{22} \phantom{8} \\
 27 \\
 \underline{27} \\
 0
 \end{array}$$

②  $0.12 \div 7.5 =$  0.016

$$\begin{array}{r}
 0.016 \\
 7 \overline{) 0.12} \\
 \underline{7} \phantom{5} \\
 50 \\
 \underline{50} \\
 0
 \end{array}$$

③  $0.42 \div 5.6 =$  0.075

$$\begin{array}{r}
 0.075 \\
 5 \overline{) 0.42} \\
 \underline{35} \phantom{0} \\
 70 \\
 \underline{70} \\
 0
 \end{array}$$

(小数) ÷ (小数)は、どちらも整数に直さなくても、わる数を整数に直すだけでも、(小数) ÷ (整数)になるから、計算することができるね。

12 計算のまちがいを見つけて、正しく計算しましょう。

①  $21 \div 3.5 = 0.6$

②  $6.3 \div 8.4 = 7.5$

$$\begin{array}{r}
 3.5 \overline{) 21.0} \\
 \underline{21.0} \\
 0
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 8.4 \overline{) 63.0} \\
 \underline{58.8} \\
 42.0 \\
 \underline{42.0} \\
 0
 \end{array}$$

↓ : 正しい計算

↓ : 正しい計算

①  $21 \div 3.5 =$  6

②  $6.3 \div 8.4 =$  0.75

$$\begin{array}{r}
 3.5 \overline{) 21.0} \\
 \underline{21.0} \\
 0
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 8.4 \overline{) 63.0} \\
 \underline{58.8} \\
 42.0 \\
 \underline{42.0} \\
 0
 \end{array}$$

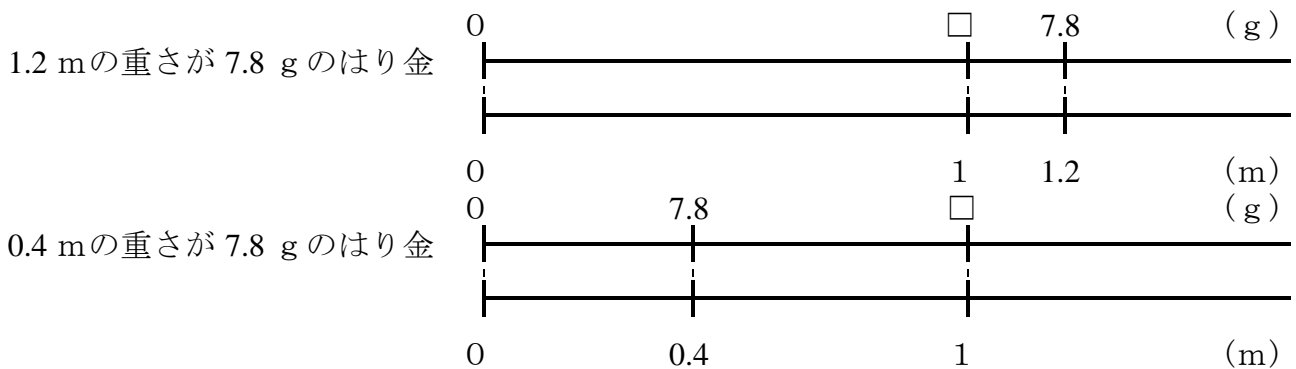
## 【商の大きさ】

### 基本の確かめ

わる数と商の関係を調べよう。

- 13 1.2 mの重さが7.8 gのはり金と、0.4 mの重さが、7.8 gのはり金があります。それぞれの1 mの重さを、7.2 gと比べましょう。

1 mの重さを数直線を使って考えると、



- ① それぞれの1 mの重さを求めて、7.2 gと比べると

1.2 mの重さが7.8 gのはり金  $7.8 \div 1.2 =$   (g)で7.2 gより小さい。

0.4 mの重さが7.8 gのはり金  $7.8 \div 0.4 =$   (g)で7.2 gより大きい。

わる数が1より大きいときは、商はわられる数より小さくなります。  
わる数が1より小さいときは、商はわられる数より大きくなります。

### ステップ2

- 14 大きい方はどちらでしょう。

①  ,  答え

②  ,  答え

(確かめの計算スペース)

$$3.5 \div 1.4 = 2.5$$

(確かめの計算スペース)

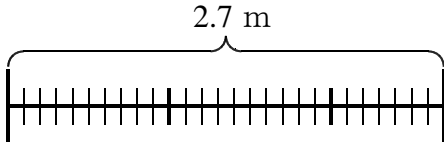
$$0.9 \div 0.4 = 2.25$$

(3) あまりのあるわり算

基本の確かめ

あまりの求め方を考えよう。

- 15 2.7 mのひもを、0.6 mずつ切ってアクセサリーをつくります。  
 0.6 mのひもは何本切り取れるでしょう。  
 また、何mあまるでしょう。



- 何本とれるか求める式は、

① 2.7 ÷ 0.6

- ② この式を筆算で求めて、□にあてはまる数を書きましょう。

$$0.6 \overline{) 2.7}$$

この数は、

0.1 が 3 つ分

$$\begin{array}{r} \square \\ 0.6 \overline{) 2.7} \\ \underline{2.4} \phantom{0} \\ 0.3 \phantom{0} \end{array}$$

← 3

$$\begin{array}{r} \square \\ 0.6 \overline{) 2.7} \\ \underline{2.4} \phantom{0} \\ 0.3 \phantom{0} \end{array}$$

- ③ だから、  
 答え 4 本取れて、0.3 mあまる。
- 

- ④ 答えの確かめをしてみると、
- $$0.6 \times \span style="border: 1px solid black; padding: 5px 20px;">4 + \span style="border: 1px solid black; padding: 5px 20px;">0.3 = \span style="border: 1px solid black; padding: 5px 20px;">2.7 (m)$$

あまりを求めるときは、0.1 や 0.01 がいくつ分あるか考えていけばよい。  
 小数のわり算では、あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうちます。

**ステップ1**

16 商を小数第1位まで求めて、あまりもだしましょう。

①  $2.5 \div 0.9 =$  2.7あまり0.07    ②  $8.7 \div 2.6 =$  3.3あまり0.12    ③  $47 \div 3.8 =$  12.3あまり0.26

$0 \setminus 9$	$2 \setminus 5$	$2.7$
		1 8
		7 0
		6 3
		7

$2 \setminus 6$	$8 \setminus 7$	$3.3$
		7 8
		9 0
		7 8
		1 2

$3 \setminus 8$	$4 \setminus 7 \setminus 0$	$12.3$
		3 8
		9 0
		7 6
		1 4 0
		1 1 4
		2 6

**ステップ2**

17 2.3 dlのペンキでかべをぬったら、3.4 m<sup>2</sup>ぬれました。  
このペンキ1 dlで、何m<sup>2</sup>のかべをぬれるでしょう。  
商を四捨五入して、小数第1位まで求めましょう。

① 式 3.4 ÷ 2.3

② ①の式を筆算で計算すると、商を四捨五入して、  
小数第1位まで求めるのだから、商を

小数第 2 位まで計算して、小数第 2 位

を四捨五入すればよい。

③ 答え 約 1.3 m<sup>2</sup>

四捨五入するときは、  
その下の位の数  
を四捨五入すればいいんだね。

$1.$	$3$	$2 \setminus 5$
		3 4
		2 3
		9 0
		7 8
		1 2 0
		1 1 5



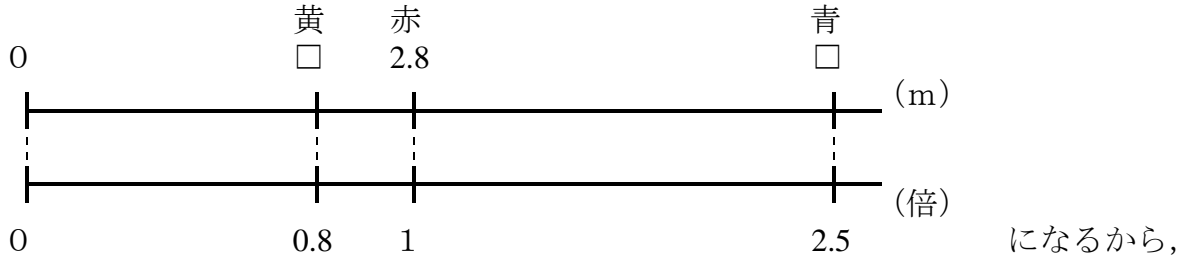
(4) 小数倍とかけ算, わり算

基本の確かめ

小数倍について考えよう。

18 赤いテープの長さは, 2.8 mで, 青のテープの長さは, 赤いテープの長さの 2.5 倍です。  
 また, 黄色のテープの長さは, 赤いテープの長さの 0.8 倍です。  
 青と黄色のテープの長さは, それぞれ何mでしょう。

① 数直線に赤, 青, 黄のテープの関係を表してみると,



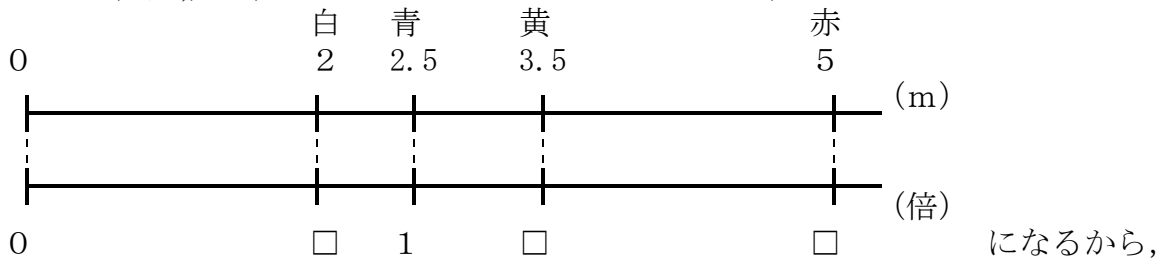
青のテープの長さを求める式は,  $2.8 \times 2.5 = 7$  (m)

黄のテープの長さを求める式は,  $2.8 \times 0.8 = 2.24$  (m)

19 次のような4本のテープがあります。  
 赤, 黄, 白のテープの長さは, それぞれ  
 青いテープの長さの何倍でしょう。

【テープの色と長さ】					
赤	.....	5 m	黄	.....	3.5 m
青	.....	2.5 m	白	.....	2 m

① 数直線に赤, 黄,, 白, 青のテープの関係を表してみると,



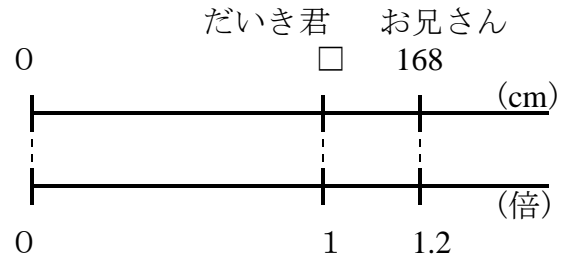
赤のテープの長さを求める式は,  $5 \div 2.5 = 2$  (倍)

黄のテープの長さを求める式は,  $3.5 \div 2.5 = 1.4$  (倍)

白のテープの長さを求める式は,  $2 \div 2.5 = 0.8$  (m)

20 だいき君のお兄さんの身長は168cmで、だいき君の身長の1.2倍です。  
だいき君のお兄さんの身長は何cmでしょう。

① 数直線に表すと、右のようになるから、  
だいき君の身長を□cmとして、  
かけ算の式に表すと、



$$\square \times 1.2 = 168$$

$$\square = 168 \div 1.2$$

$$= 140$$

答え 140 cm

**ステップ1**

21 たけしさんの家から駅までの道のりは、2kmです。  
これは、家からバス停までの道のりの0.5倍です。  
家からバス停までの道のりは何kmでしょう。バス停までの道のりを□kmとして、  
かけ算の式に表して答えをもとめましょう。

(式)  $\square \times 0.5 = 2$

$$\square = 2 \div 0.5$$

$$= 4$$

答え 4 km